

小学校 第1学年 音楽科 学習指導案

山形大学
教授 佐川 馨

題材名 どれみとなかよし（4時間）

題材のねらい 曲想と音階など音楽の構造との関わりに気づくとともに、ドレミの音高を体で表現する活動を通して、階名で模唱したり暗唱したりする技能を身に付ける。

本時のねらい 曲想と音階などとの関わりに気づくとともに、階名で表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しむ。（第1時）

指導時期 9月

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

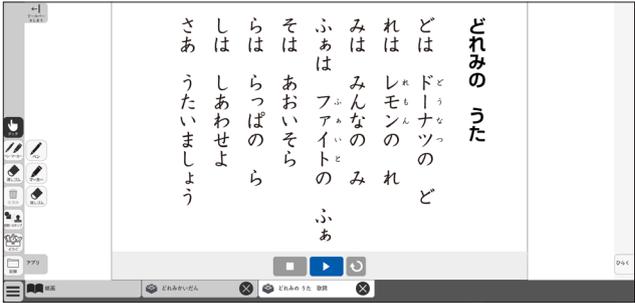
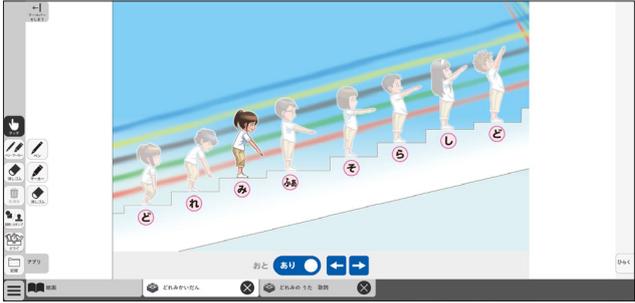
階名に親しみ、音階感覚を身に付けることは全ての音楽活動の基盤となる力を養うことにつながる。この題材で取り組む『どれみのたいそう』では、児童が体の動きに合わせて歌い、耳で聴き、目で見ることによって、遊びながら音階感覚や音の高低を聴き分ける力を身に付けることができる。

紙の教科書では紙面を見つめながら活動する児童が多く、歌いながら体を動かす際に視線が下がりがちとなり、教師の指示、発問が伝わりにくくなることも考えられる。

「指導者用デジタル教材」を、先生がプロジェクターや電子黒板に投影して使用することにより、児童がのびのびと体を動かしたり、音を注意深く聴いたり、正しい高さで歌ったりすることができるようになると思う。教材中の「まなびリンク」の動画や「教科コンテンツ」の『どれみかいだん』の活用は上記の問題解決の大きな力になるであろうし、本題材だけでなく、鍵盤ハーモニカの学習やその後の様々な音楽活動でも有効なツールとなるであろう。

本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 ●「目次を開く」から『どれみのうた』のページを表示する。 ●『どれみのうた』を聴き、音階が出てくることに気づく。 ●「ど」「れ」「み」の音階をもとにした曲であることを知る。 	 <ul style="list-style-type: none"> ●『どれみのうた』の[音声]アイコンをクリックする。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●『どれみの うた』を歌いながら聴き、階名に親しむ。 ●歌詞を見ながら音源に合わせて『どれみの うた』を歌う。 ●歌詞の始めの「どれみ…」を意識して『どれみの うた』を歌いながら階名に親しむ。 ●『どれみの たいそう』をする。 ●それぞれの手の位置を確かめながら、『どれみの たいそう』をする。 ●『まねっこ遊び』をする。 ●教師の動きのまねをし、階名で歌いながら体で表す。 ●速さを変えたり、音の数を増やしたりしながら短いふしで行う。 ●『音あて遊び』をする。 ●教師がピアノで弾いた単音の階名をあてっこし、階名で歌いながら体で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●[歌詞] アイコンをクリックして『どれみの うた』の歌詞を表示し、音源を再生する。  <ul style="list-style-type: none"> ●[教科コンテンツ] の『どれみかいだん』や「まなびリンク」の『<どれみの たいそうのれい>』を活用しながら進める。  
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●『どれみの たいそう』をしながら『どれみの うた』を歌う。

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

階名で模唱したり暗唱したりする活動は、その後の音楽活動を豊かにしていくための基盤となる力を育てることに繋がる。『どれみの たいそう』は体を動かして楽しみながら音階を知り、音高感を身に付けていくことができる教材である。『どれみの うた』で階名に親しみ、次の『どれみの キャンディー』で学んだ成果を、その後の鍵盤ハーモニカの学習や他の学習の場面に取り入れていきたい。

「指導者用デジタル教材」は、必要なコンテンツがすぐに使えるので、児童の学びの様子を捉えながら適時適切に用いることによって、高い学習効果が期待される。